東京製鉄

大和リース、ナベショーと協定

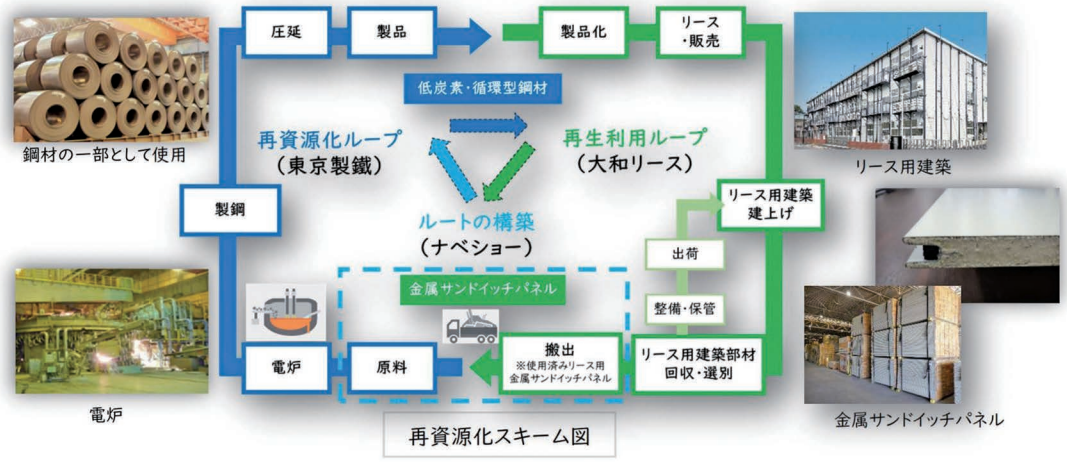
金属サンドイッチパネルをアップサイクル

東京製鉄（社長・西本哲弥氏）と鉄スクラップ専業商社のナベショー（大阪市、社長・渡邊泰博氏）とともに、使用済みのリース用建築部材「金属サンドイッチパネル」の再資源化に取り組む3社協定「建材アップサイクルコンソーシアム」を、きょう21日に締結すると発表した。従来は産業廃棄物として処理されていた大和リースの金属サンドイッチパネルを東鉄が鉄源として活用。東鉄のホットコイルなどを大和リースが購入・製品化することで鉄源の循環を構築する。ナベショーは金属サンドイッチパネルの排出から東鉄への納入までの物流・加工処理フローを管理する。すでに2021年5月から大和リースの4拠点で運用を始めており、来年4月には拠点数を全国10カ所に拡大。大和リースでは生産部門で発生する金属サンドイッチパネルのリサイクル率を現状の49%から来年4月には96%に引き上げていく考え。

金属サンドイッチパネルは表面と裏面の塗装鉄板の間に断熱材として硬質ウレタンフォームを挟み込んだ外壁・内壁一体の建材。大和リースでは19年実績として236トンの金属サンドイッチパネルを廃棄物として処理していた。ただ、鉄板部分は鉄源として活用できることから、3社が連携して金属サンドイッチパネルをアップサイクルするスキームを構築した＝写真。

同取り組みは21年5月から始まっている。現状は大和リースの栃木二宮デポ（栃木県真岡市）と千葉長南デポ（千葉県長南町）、滋賀水口デポ（滋賀県甲賀市）、福岡デポ（福岡県糸田町）の4拠点から東鉄の各工場に使用済みの金属サンドイッチパネルが出荷されている。

3社が協定を締結することにより、排出元と受け入れ先、流通商社の役割を構築。大和リースから排出される使用済み金属サンドイッチパネルの流通ルートを明確化し、再資源化の円滑な運用が可能になるとしている。



再資源化スキーム図